

関空対岸に新拠点

西濃運輸 最大規模のセンター誕生

西濃運輸(本社・岐阜県大垣市、田口義隆社長)は五日、関西空港対岸に同社最大規模の物流施設「セイノーりんくう物流センター」を開設した。荷主は日用雑貨、食品、機械部品関係など四社。地域に根付いた営業を展開するとともに、恵まれた立地条件を生かして全国規模の物流拠点にする方針だ。

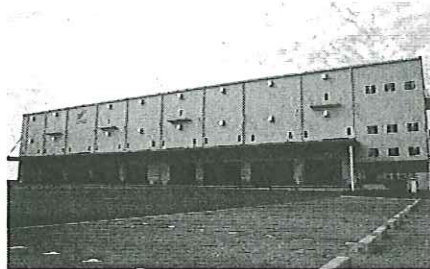
(牧田 圭介)



田口 義隆社長

全国十九カ所目の物流センターとして、同社最大規模の拠点が完成した。田口社長は「ここをロジスティクス事業の試金石と捉え、お客様に最大限のサービスを提供できるように取り組んでまいります」。

貨物の保管・流通加工・全国ネットの輸配送など総合物流サービスの展開を加速するなか、新センターにかける期待は



5日に開設した「セイノーりんくう物流センター」

大きい。所在地は大府泉佐野市りんくう往来北五ノ丁一。関西国際空港に隣接

する泉佐野市りんくう地区。阪神高速湾岸線泉佐野南ICから約二百メートル。大阪南港に近く、陸海空すべてのアクセスに優れる。

新センターは鉄骨造り四階建。敷地面積は約一万二千五百平方メートル。延べ床面積は約二万九千平方メートル。貨物保管だけでなく、仕分けや流通加工など顧客企業のニーズにも対応する。

長さ九十メートルのプラットホームには奥行き六メートルの庇(かじ)を取り付け、荷役作業の効率化を図った。荷物用エレベーターは四基設

置、四階の天井部分には荷物の品質に配慮し断熱材を使用している。同社はターミナル一体型物流を展開。物流センターとトラックターミナルを併設し、リードタイムの短縮を図っている。新センターも全国への運行便が充実している堺支店を母店として営業する。

年間取扱量については未定だが、契約済みの四社を含め、今年四月に三〇%、十一月までに二〇%の稼働を目指す。また人員については当面、柳瀬浩司センター長を含む二人体制で行うが、取扱量の増加とともに段階的にスタッフを増やすなど、緩やかな立ち上げを予定している。三月には埼玉県さいたま市に岩槻支店をオープンする。倉庫事業の拡大を目指す。